

昔話法廷

ねらいと展開

第5話「舌切りすずめ」裁判

本時のねらい

- ・被告人のすずめが有罪か無罪かについて、番組で説明される証言や証拠、検察・弁護双方の言い分を理解して、多面的に考察し、自分の考えを持つことができる
- ・理由を明確にして自分の考えを伝え合うことができる

展開例 ※()は中高の時間

時間の目安	主な学習活動	指導上の留意点
	1. 課題を確認して番組を視聴する	
17分	<ul style="list-style-type: none">・理由や根拠を明確にして自分の考えを伝え合うことを確認する・裁判員裁判について簡単に説明し、自分も裁判員になったつもりで中立の立場で視聴する・大事なことはメモを取りながら視聴する	<ul style="list-style-type: none">・番組視聴後、裁判員として判決を考え、話し合うことを確認する・先入観を持たないよう、昔話の内容を視聴前に説明しない・法廷でのやり取りだけを根拠にして考えることを確認する・なぜそう考えたか根拠が大切になるので、メモをとるよう指導する
	2. 裁判の争点を確認する	
3分	<ul style="list-style-type: none">・今回考えるのは、すずめが殺人未遂罪で有罪か無罪かということ・すずめが、つづらの中に何を入っていたかがポイントになる	<ul style="list-style-type: none">・この授業で何を考えるのか確認する
	3. 裁判で出た証言や証拠を個人で整理しながら、自分の考えを決定する	
5分	<ul style="list-style-type: none">・取ったメモをもとに、表を使って証言や証拠を整理する・自分の考えを決定し、その理由をワークシートに記入する・特に判断の決め手となった証拠がどれかわかるように書く	<ul style="list-style-type: none">・付箋を利用するとよい。全員に配布し、そこに証言や証拠を書き出す。有罪の証拠になるのか、無罪の証拠になるのか、考えながら分類する・クラスの実態に応じて、個人でなく全体で確認してもよい・自分の中で特に決め手となる証拠はどれか、考えさせる <p>*タブレット端末で視聴する場合は理解に応じて繰り返し視聴する時間を設けたり、根拠となるシーンの静止画像を撮影させたりする</p>

時間の目安	主な学習活動	指導上の留意点
4.グループで考えを伝え合い、討論する		
13分 (18分)	<ul style="list-style-type: none"> ・司会役、記録役の児童生徒を決めて進行する ・はじめに結論を述べ、次に理由や根拠を述べる ・相手の説明をよく聞き、質問をしたり反論をしたりして自分の考えを深める ・心が動いた意見はメモしておく ・司会役の児童生徒は論点表を活用してもよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード等にそれぞれの意見のポイントを記録させ、可視化できるようにするとよい ・グループで話し合うことで、意見が変わってもいいことを知らせる ・教師はグループ間を巡視し、出てきた意見に対し「この証拠はこんなふうにもとれないか？」などの問い返しをし、違う見方をさせたり、批判的思考を促したりする。 <p style="text-align: center;">*タブレット端末を活用する場合は、根拠となるシーンの静止画像を提示しながら討論してもよい</p>
5.グループでどのような話し合いになったか発表する		
7分	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちのグループは、〇〇について議論になりました」「～の証拠に対し、有罪という人と無罪という人がいて討論になりました」など、グループ内でどんな話し合いが行われたか、ポイントを絞って話す ・他のグループの発表も参考にしながら、自分の最終結論をワークシートに書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の論を作ることがゴールなので、グループでの判決は出さない ・最終的に自分ならどう判断するか考えながら、他のグループの発表を聞く